

# 兵庫県南西部におけるムラサキツバメの現況（その1）

## 1. はじめに

ムラサキツバメ (Narathura bazalus HEWITSON) が相生市矢野町三濃山山麓で発見 (1963年9月1日、1♀) されてから26年たった。当地は現在、「羅漢の里」整備を目的とした市の観光開発等のために大変貌をきたし、ムラサキツバメの貴重な生息地は駐車場に変わり果ててしまい、この蝶の食樹であるブナ科マテバシイ属のシリブカガシも多数伐採されてしまった。

## 2. 最近の観察例より

- (1) 1989年8月9日9時頃、出光興産・兵庫製油所 (姫路市飾磨区妻鹿日田町) 構内にて、偶然にも1♂ (小破) に遭遇し、手ずかみしようとしたが緑地帯の方に逃げられた。姫路市臨海部には住宅と工場との境界部に、グリーンベルトが設けられており、そこにはこの蝶の食樹であるマテバシイが多数植えられている。念のため姫路市公園環境局緑化係へこれらの木がどこから移入されたのか問い合わせたが過去の事とてわからないとの回答があった。因みにここのグリーンベルトは第1期工事として昭和44年から47年にかけて白浜-妻鹿の間、東西2帯、幅 100~150m、面積にして22.1haが造成されている。

マテバシイは6月頃に花を咲せ、堅果は翌年の秋に熟す。従って、この時期には多数のドングリがなっており、土用芽等はここでは見出す事が出来なかった。

- (2) 1989年8月10日、クロコノマチョウの発生状況確認のため、三濃山へ出掛た。駐車場に車を止めて、ふと前日思いもしなかった蝶に遭遇したことを思いだし、なにげなく林縁のシリブカガシに目がいった。ひょっとしたら、よしムラサキツバメの幼虫を捜してみようと、1~3位のシリブカガシの若木数本の新芽、若葉を入念に観察したところ、2令~終令幼虫を14頭確認することが出来た。このうち8頭を飼育のため持ち帰り、内3頭を木村三郎氏に、残り5頭を自宅でシリブカガシを用いて飼育した。

飼育の結果は下表の通り。

	蛹化	羽化	性	蛹期	注 記
1	8月17日	8月26日	1♂	10日	
2	8月18日	8月28日	1♀	11日	
3	9月3日	9月14日	1♀	12日	
4	—	—	—	—	弱令時に死亡
5	—	—	—	—	弱令時に死亡

当地におけるシリブカガシは8月後半～9月に花を咲せ、堅果は翌年の秋に熟す。他のブナ科植物に比し、秋に花をつけるためこの期間に山野を調査すれば、この樹木の分布がわかりやすい。ところで、またこの時期には新芽をも多数つけており蝶の産卵時期として申し分のない頃でもある。

- (3) 1989年9月4日、相生市若狭野町東後明にて、樹高4㍍位のシリブカガシの根元より派生した1.3㍍程のヒコバエより3令幼虫を1頭確認した。ここは、かねてより目をつけていた場所でもあったが、なかなか出掛ける機会がなく、今日まで見過ごして来た。ここでは、シリブカガシは等高線100㍍付近の谷間に生育している。

飼育の結果は下表の通り。

	蛹化	羽化	性	蛹期
1	9月12日	9月26日	1♀	15日

### 3. 過去の観察例より

- (1) これは少し古いデータであるが、1982年8月22日12時30分頃、赤穂市周世坂にて樹高2㍍位のシリブカガシの新芽に産卵中の1♀を確認。この♀を採卵用として採集し、自宅にて産卵させ20数卵を得た。尚、この日4♀♀を確認したが完品は一つもなかった。またこの樹木より3卵確認、樹下の落葉より蛹殻一つ見出した。

飼育の結果(3例)は下表の通り。

	産卵	孵化	蛹化	羽化	性	幼虫期	蛹期
1	8月22日	8月25日	9月16日	9月30日	1♀	23日	15日
2	8月23日	8月26日	9月16日	9月29日	1♂	22日	14日
3	8月25日	8月28日	9月18日	10月2日	1♀	22日	15日

### 4. 幼虫の捜し方

幼虫捜しの狙い目は、先ず食痕があるか、葉の裏(たまに表側もある)を内側に巻いているか、かつ、それにアリがまとわりついていないか等を一葉々目視確認していく。先ず、食痕であるが弱令期の場合、この蝶の幼虫は繊維質をなめるようにして食するため葉に点々と褐色斑が入り、馴れれば発見は容易であるが、いざ幼虫の姿となったら葉の中に喰込んで保護色を呈しており非常に捜し難い。このため、卵より飼育すれば、1令幼虫時に見失う事が多い。中令期以後になると造巢し、かつその台座をも食し、ときには体の一部が露出したりしているが大抵3匹以上のアリが幼虫の背にまとわりついているため容易に見出すことが出来る。

## 5. 飼育上の注意点

- (1) 弱令期は若葉の繊維質をなめるように食する。若葉であっても新鮮なものでないと、死亡するものが多くなる。筆者の飼育例では、ビンさしで、4日位使用、古くなる（しおれる寸前）と弱令幼虫は殆ど食せず、はいまわってすべて死んだ。3令以上では、若葉であれば問題なく蛹化まではいくが、新鮮な葉を与えておかないと前蛹時死ぬこともある。終令幼虫の体色が茶褐色を帯びて来ると、2～3日後には蛹化する。そのため、蛹化にそなえ、適当な蓋付容器に取込み、葉をちぎって入れておくと葉上の窪みに、または2～3枚の葉を合せ糸で綴ってその中で蛹化するので、行方不明になることが防げる。
- (2) 1982年度の飼育との相違点  
 前はタッパを使用し、1～2日おき位に食樹をとりについていた。今回は食樹をビンさしで与えた。そのためかどうか、弱令幼虫は這い回ってすべて死んだ。弱令期よりの飼育では新鮮な葉を与える必要があり、野外で採集して、飼育する場合は中令以後の幼虫が容易である。
- (3) 食樹シリブカガシはどこにでもある樹木でないため、鉢植え等で持っている葉である。ドングリを秋（11月頃）に拾ってき、まけば翌春には発芽する。

## 6. 採集記録

1989年度までに確認された場所は、下記6ヶ所である。相生市矢野町小河では、シリブカガシ、マテバシイともに見当たらない。尾根を介して東側に位置する鍛冶屋谷より飛来したものとおもわれる。

- |                 |      |            |         |
|-----------------|------|------------|---------|
| (1) 相生市矢野町三濃山   | 1♂羽化 | 1989年8月26日 | 唐土洋一    |
| (2) 赤穂市周世坂      | 4♀♀  | 1982年8月22日 | 唐土洋一    |
| (3) 相生市矢野町小河    | 1♀   | 1982年7月29日 | 入江智朗 6) |
| (4) 姫路市飾磨区妻鹿日田町 | 1♂目撃 | 1989年8月9日  | 唐土洋一    |
| (5) 相生市若狭野町東後明  | 1♀羽化 | 1989年9月26日 | 唐土洋一    |
| (6) 宍粟郡波賀町小野    | 1♀   | 1983年9月18日 | 勝屋 潤 5) |

(採集月一覧表)

◎：採集 ○：目撃 ☆：飼育（産卵）★：飼育（羽化）

6月			7月			8月			9月			10月			11月	
上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
					◎		○		◎	◎						◎
								★		★	★					
							☆	----->			★	★				

## 7. 発生回数について

四国高知付近ではシリブカガシの新芽に4～5月頃産卵がみられ、第1化は6月上・中旬、第2化は7月中旬から、越冬体は9月から出現すると言われている。しかしながら、当地では、いまだ第1化の成虫が採集されていない。これは何を意味しているのだろうか。

この蝶は弱令期に若葉の繊維質をなめるように食する。従って、母蝶が産卵する時期は当然新芽の出る頃となり、当地では春芽、土用芽、秋芽の3回しか産卵のチャンスがない。土用芽は樹木により差異が見受けられ、蛹化に至るまでの絶対量が確保出来るのか疑問でもある。また成虫の生存期間も結構長いものとするれば、その間に産卵に適した新芽を捜し、ダラダラと発生を続けていけば発生回数は2～3回となり、秋芽は10月にはすでに硬葉となり、食樹としては不適である。従って、4回はありえない。そのためにも、ぜひ第1化の発生確認が必要である。

## 8. 食樹の分布

ブナ科マテバシイ属には、マテバシイとシリブカガシの二種類がある。

### (1) マテバシイの分布

① マテバシイは公害に強い木として、街路、公園、墓地等に広く植栽されている。播磨地区には自然状態では分布しない。従って、食樹として評価したとき疑問が残る。しかし、今回姫路市にて目撃したムラサキツバメはどこから飛来したのだろうか。単に偶産蝶としてかたずけてよいものかどうか。一度、この緑地帯を調査してみる必要がある。

### (2) シリブカガシの分布

- ① 相生市におけるシリブカガシは3ヶ所に分布している。まずは、矢野町三濃山鍛冶屋谷、若狭野町東後明、若狭野町入野にある。いずれも、谷筋に発達している。ムラサキツバメはこのシリブカガシと密接な関係を持っているようだ。
- ② 赤穂市からは周世坂が広く知られている。筆者がここでムラサキツバメを発見したときは一部伐採が行われていたが8年たった現在では樹木も成長しシリブカガシ林を形成するに至っている。
- ③ 揖保郡新宮町善定の松尾神社にも社叢林として保護されているが、ここにムラサキツバメがいるかどうかは、未確認である。

### (3) 食樹の芽ぶき時期について

- ① 昨年シリブカガシ、マテバシイのドングリをとりまきましたところ、どちらも春に発芽した。マテバシイは乾燥に弱いようで、発芽率は非常に悪かった。それに比し、シリブカガシは80%以上の発芽率であった。
- ② 鉢植えした食樹で芽ぶき状態を比較したところ、マテバシイは10月に秋芽(但し、二葉のみ)を出し、シリブカガシは8月に土用芽、9月に秋芽を出した。食樹として比較すれば断然シリブカガシの方が勝っているようだ。
- ③ マテバシイとシリブカガシの芽ぶき状態が当地ではどう違うのか、相生市の中央公園に植栽されているマテバシイを観察したところ、10月頃に秋芽と思しきものがみられたが、すべて、ヒコバエよりのものであった。相生市山手の墓地公園では、秋芽は全く見られなかった。羅漢の里にも、マテバシイが数本植栽されているので、芽吹き状態を比較観察してみる必要がある。
- ④ 四国高知の例ではマテバシイの芽立ちが越冬母蝶の産卵時期より早すぎ、産卵に不適ではないかとの指摘もあるが…。